

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270801580		
法人名	株式会社 リエイ		
事業所名	コミュニケア24市川おにだか館グループホーム		
所在地	千葉県市川市鬼高1-6-2		
自己評価作成日	平成23年12月15日	評価結果市町村受理日	平成24年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307
訪問調査日	平成24年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市川市で初めての認定グループホームとして、ベテランヘルパーから若いヘルパーが御利用者様が穏やかに暮らされるよう努めています。看護師も在籍しており、迅速な対応を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複合介護施設として、4階建ての建物に住宅型有料老人ホーム、訪問介護、デイサービスと併設されたホームです。そのため、共同してボランティアの受け入れや行事を行ったり地域社会に貢献する等、複合施設のメリットを享受しています。
計画作成担当者は認定審査会の審査員を務め行政とのパイプを持ちつつ、地域に貢献しています。
職員には看護師が2名いて、利用者の健康維持に努めているので、安心感があります。
看取りの経験・知識が蓄積されてきており、終の棲家として安心できるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (2階)	外部評価 (2階、4階共通)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心のこもった介護サービスを提供することで、地域の介護力向上に貢献する。」を理念に掲げ管理者、職員、事業所全体で共有し実践できるよう努めている。	ホーム内に理念を掲示し、法人として、市社会福祉協議会の「地域福祉貢献活動を推進する法人会員」となり、地域貢献活動で感謝状も授与されたりしています。しかし、一般職員の間で十分共有されている様には思われません。	月1回の定例研修会の際に職員全員で理念を唱和したり、実践に繋がっているか反省する機会を持つ等、何らかの方策を取ることが望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	複合施設であるため、デイサービスの利用から入所される方や長年かかりつけの地域の医師からの紹介で入所される方が多く入所後も絶えることなく自治会や地域との交流がある。	町内会長に運営推進会議に出席して貰えたり、副会長も民生委員として交流があり、町内会の盆踊りに参加する一方、地域の方がボランティアとして、夏祭り・新年会・敬老会等の施設の行事に参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各フロアに認知症ケア専門士を配置し、複合介護サービス事業としてフリーダイヤルを設け介護・認知症についての相談を受けられるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族に定期的にアンケート調査をし、運営推進会議において調査結果の報告、話し合いを行い提議された意見は職員で共有しサービス向上に活かしている。御家族とも勉強会も行なっている。	会議は、漸く2月に1回のペースで開催できるようになりました。外部のメンバーは地域包括支援センター、町内会長、利用者家族と限られていますが、現況等の報告に対し率直な話し合いが行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当館開設以来、介護福祉課には週に一度、4階GH計画作成者が認定審査会で審査員として訪問、連絡、相談をし密接に連携している。	左記自己評価に記載の通り、当ホームの計画作成担当者が認定審査会の審査員であるため、緊密な連携関係があり、地域包括支援センターも運営推進会議のメンバーとして、ホームの実情をよく理解してくれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、居室、無施錠を実施し、身体拘束対策委員会を設け全職員が理解し、転倒、事故を防止するため見守りを強化するケアに取り組んでいる。	身体拘束排除のマニュアルがあり、身体拘束とは何かを職員も良く理解しています。玄関等に施錠する等して拘束をすることなく、利用者の安全を確保するにはどうしたら良いか、常に職員間の話題になっていると、職員が話してくれました。	ホームとして身体拘束排除・虐待防止の方針が依然として明確に示されていないので、早期に打ち出し職員に周知徹底することが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止関連法について勉強会、研修で学んでいる。職員の過労によるストレスなどにも気をつけ絶対防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価（2階）	外部評価（2階、4階共通）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、計画作成者は日常生活支援事業や成年後見制度についての講習を受けており必要な人には相談、対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書を契約者と全て読み合わせをし、理解、納得していただけるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的なアンケート調査や、管理者宛意見箱を設置し不満苦情を表せる機会を設け、定例会やカンファレンスで反映している。	意見箱は殆ど利用されることはありませんが、外部評価の時以外にも、ホーム独自の家族アンケートを年1回実施し、結果を集計・分析し、定例研修会やケアカンファレンスで話し合い、日頃のケアに活かすようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表、管理者は業務改善委員会を設け、職員同士が話し合い提案、意見を聞き、反映できるよう努めている。	法人全体では各施設の代表が業務改善委員会の場で、ホーム内では毎月開催する職員定例会で率直に意見を交わしています。職員も、費用のかかることは簡単ではないが、可能なことは聞いて貰えると言っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とは定期的に個別面談を行い勤務状況や目標などの確認を行っている。職場環境・条件についても業務改善委員会の意見のもと整備できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が法人内外の研修、勉強会に月に一度積極的に参加出来るよう機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは、定期的に相互訪問を行ない交流をし情報交換する事によりサービスの質が向上するよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価（2階）	外部評価（2階、4階共通）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の安心を確保するための環境作り、御家族との話し合いで本人と職員との信頼関係の構築に重点を置き要望に対応出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不安やニーズに耳を傾けそれについて話し合い信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等の「その時」必要な物に優先順位をつけ計画をたてた上、自立につながるその他サービスも有効に利用出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の一つでもある、人生の先輩として敬意を持って対応・残存能力を保持できるよう出来ることはやっていただけよう自立支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時、及び毎月の家族への手紙のなかで、本人の生活状況や行事への参加呼びかけをし家族との途切れぬ絆を大切にしたい支援を心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れぬよう、支援に努めている	本人がよく口にする馴染みの店、かかりつけのクリニック等に出向く等、関係が途切れぬような支援をしている。	以前住んでいた近所の知人が、6か月に1回程度面会にやって来たり、行きつけの食堂等に出かけて行ったりと、馴染みの人や場所が途切れぬよう継続的に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーション保持、孤立化を防ぐ為に職員が常に観察、性格を把握し声かけ等で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価（2階）	外部評価（2階、4階共通）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了し、退所された場合でも必要に応じて電話などで状況を聞く時もある。家族などから相談があった時は、対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの際、本人、困難な場合は家族から生活習慣をよく聞き、意向を把握できるよう努めている。	日中一人暮らしで話し相手もない、淋しいのではと家族が心配して相談に来られ、本人、家族、関係者で話し合い、検討の結果入所に至った例もあります。入所後は利用者同士で会話を楽しむようになり、生き生きと暮らしているようです。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの際一人ひとりの生活歴、暮らし方を把握し職員全員で話し合いを行い適切なサービスを提供できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身状態は、看護師を交え記録、スタッフによって申し送り、職員共通に把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は利用者の意見、ケアについて本人、家族等から聞き取り意見を求めている。意思の疎通が困難な利用者には家族、関係者の意見、要望を元に作成している。	基本的には3か月に1回見直しをしています。状態変化時には、都度カンファレンスを行い、家族にも相談をしながら計画作成担当者が見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個人記録および連絡ノートに記入職員間で共有している。フロア会議で毎月、現状や経過観察について話し合い、介護計画の見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設の利点を活用し多機能なサービスを提供できるような柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価（2階）	外部評価（2階、4階共通）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のフォーマル・インフォーマルな資源を活用し、防災から行事などの楽しみまで安全かつ豊かな暮らしが送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の選択は、本人、家族の希望を尊重している。入居時、連絡体制のある近隣の医師をいくつか紹介もしている。	訪問診療は内科月2回・歯科医師月1回の他、リハビリ・マッサージ等があります。受診は基本的には家族同行ですが、不可能な時は職員が代行することもあります。訪問調査時、家族同行でかかりつけの医療機関に受診されている方がありました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	おにだか館職員の常勤の看護師が日常の健康管理や医療を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院がスムーズに行なえるよう、看護職員が中心に病院関係者と連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、家族、看護職員で話し合い、この先予想される状態やリスクを検討し、チームでケアを実践している。事業所で対応できないと判断し場合は、病院等と連携をとり担当医からの医療情報、介護情報を提供している。	重度化に伴う意思確認書を作成し、同意を得ています。対応指針を定めて、家族・医師・看護師を交えて話し合い、急変時には、家族に相談をしながら、対応しています。実際に看取りに至ったケースも少なくなく、経験を重ねています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを常置してあり、緊急時組織図、連絡網を貼付、救命講習を定期的に行ない職員全員が実践できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害・緊急時の組織図・避難場所を貼付し職員全員が周知し、消防署の協力で昼夜問わない避難方法も研修している。	年2回消防署立会いの下で夜間を想定した消火・避難訓練を行っています。スプリンクラー等必要な設備も万全で、機器の定期検査も欠かさず実施しています。東日本大震災の際の経験を生かし、備蓄品・量の見直しも進めています。	

自己	外部	項目	自己評価（2階）	外部評価（2階、4階共通）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライドを尊重し敬意をはらった言葉かけや対応を自然なかたちで行えるよう心がけている。	おむつ交換は自室に戻って介助します。ベッドから降りた際の足元センサーマットで気配を察知し、本人を傷つけないように目立たず、さりげない言葉かけをする等、対応に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の心の声が聞けるよう優しい声かけを心がけている。自分で意思を伝えられない利用者には日常の生活の中から意思や希望を把握する事に努め、思いが実現出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望、ペースを尊重し、その日の心身状況に合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は職員の見守りの上毎日欠かさず行ない、おしゃれについては好み、季節、着心地を考慮し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は一人ひとりの好みに合わせ、メニューも柔軟にアレンジしている。ADLを理解し、利用者と一緒に準備、片付けを行なっている。	ご飯が炊きあがる匂い、煮物の匂いを感じながら、テーブルを拭く、ご飯・味噌汁・おかずを盛り付ける等職員と一緒にいき、利用者と職員がテーブルを囲んで同じものを一緒に食べるようにして、毎日の食事を楽しむ雰囲気づくりを大切にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回摂取量を記録、一人ひとりの状態、力を考慮し調理、工夫をし十分に摂取して頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、毎食後必ず行ない義歯に関しても同様で毎食後のケアをし、夜間は洗浄剤を使用している。治療・ケアが必要な場合は訪問歯科を利用し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価（2階）	外部評価（2階、4階共通）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄のリズムとタイミングを把握し、自立及び介助でトイレでの排泄に努めている。	排泄の習慣・時間等はチェック表を使用し、トイレ誘導をすることでトイレでの排泄を促しています。居室にポータブルトイレを置たり、入所時におむつ使用だった方が自立されている例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために日々繊維質、乳製品の摂取を心がけ、車椅子利用の方にも介助による歩行、運動を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の利用者の体調やタイミングを見計らい、同意のもと、入浴を楽しんでいただけるよう支援している。	基本的には毎日利用可能ですが1日平均2～3人多い時は4～5人の方が入浴しています。介助の必要な方は週2回ですが、利用者及び介助者双方に負担にならない形で、一人ひとりに合わせた入浴支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調、日中の生活上の活動を考慮したうえで休息・安眠策をとり支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとり一人の薬の一覧と看護師からの説明がある。なお症状の変化が見られ薬の変更がある場合は迅速に看護師より申し送り、ノートを活用で職員が周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴、趣味を職員が把握し、日中、囲碁・塗り絵・体操等様々なレクリエーションで楽しんでいただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の意思・希望により近隣の店、馴染みの店で外食や買い物など外出できるよう柔軟に対応し支援している。	そう多くはありませんが、近隣の大型スーパーに買い物に出かけたり、映画鑑賞・外食に出かける等利用者の気分や希望に合わせて移動の配慮をしながら外出を楽しめる支援をしています。	屋内だけで過ごすストレスがたまりやすく、周辺症状の増悪や体調不良に陥りやすいといわれています。重度の方でも外出が困難と決めつけず、車椅子や車等を利用し、短時間でも戸外に出て、気持ち良く過ごせるよう工夫が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価（2階）	外部評価（2階、4階共通）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望に沿い、家族の同意・確認のもと所持・使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によりいつでも手紙、電話等のやり取りをしていただけるよう対応、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅地で静か、日当たり良好で静かな環境であり不快な音や光などはない。リビングや玄関など、花や置物で季節感をとりいれている。	リビングは余り広くはありませんが開口部が広くて明るく、ソファを置いた別室もあり、手狭な感じはありません。閑静な住宅街にあるため騒音もなく、落ち着いて寛げます。廊下、トイレ、浴室等も比較的ゆったりとしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルーム、居室の他に自由な時間を過ごせるオープンスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人、家族の希望で家具や、写真、使い慣れた物など一人ひとり様々に使用して頂いている。	居室の様子は、入居期間や家族の考え等もあって様々ですが、自作の精巧な彫り物を飾っている方、思い出の写真を沢山貼っている方、簡素な方等それぞれ好みに応じた雰囲気になっています。テレビを自室で観る等、思い思いに自室で寛いでいる姿が見られます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア全体バリアフリー、要所に手摺りを設置し身体・残存機能の低下予防と安全な環境作りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (4階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心のこもった介護サービスを提供することで、地域の介護力向上に貢献する。」を理念に掲げ管理者、職員、事業所全体で共有し実践できるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	複合施設であるため、デイサービスの利用から入所される方や長年かかりつけの地域の医師からの紹介で入所される方が多く入所後も絶えることなく自治会や地域との交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各フロアに認知症ケア専門士を配置し、複合介護サービス事業としてフリーダイヤルを設け介護・認知症についての相談を受けられるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族に定期的にアンケート調査をし、運営推進会議において調査結果の報告、話し合いを行い提議された意見は職員で共有しサービス向上に活かしている。御家族とも勉強会も行なっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当館開設以来、介護福祉課には週に一度、認定審査会で審査員として訪問、連絡、相談をし密接に連携している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、居室、無施錠を実施し、身体拘束対策委員会を設け全職員が理解し、転倒、事故を防止するため見守りを強化するケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止関連法について勉強会、研修で学んでいる。職員の過労によるストレスなどにも気をつけ絶対防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価（4階）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、計画作成者は日常生活支援事業や成年後見制度についての講習を受けており必要な人には相談、対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書を契約者と全て読み合わせをし、理解、納得していただけるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的なアンケート調査や、管理者宛意見箱を設置し不満苦情を表せる機会を設け、定例会やカンファレンスで反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表、管理者は業務改善委員会を設け、職員同士が話し合い提案、意見を聞き、反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とは定期的に個別面談を行い勤務状況や目標などの確認を行っている。職場環境・条件についても業務改善委員会の意見のもと整備できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が法人内外の研修、勉強会に積極的に参加出来るよう機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは、定期的に相互訪問を行ない交流をし情報交換する事によりサービスの質が向上するよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価（4階）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の安心を確保するための環境作り、御家族との話し合いで本人と職員との信頼関係の構築に重点を置き要望に対応出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不安やニーズに耳を傾けそれについて話し合い信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等の「その時」必要な物に優先順位をつけ計画をたてた上、自立につながるその他サービスも有効に利用出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の一つでもある、人生の先輩として敬意を持って対応・残存能力を保持出来ることはやっていただけよう自立支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時、及び毎月の家族への手紙のなかで、本人の生活状況や行事への参加呼びかけをし家族との途切れぬ絆を大切にした支援を心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がよく口にする馴染みの店、かかりつけのクリニック等に出向く等、関係が途切れないような支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーション保持、孤立化を防ぐ為に職員が常に観察、性格を把握し声かけ等で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価（4階）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了し、退所された場合でも必要に応じて電話などで状況を聞く時もある。家族などから相談があった時は、対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの際、本人、困難な場合は家族から生活習慣をよく聞き、意向を把握できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、暮らし方を把握し適切なサービスを提供できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身状態は、看護師を交え記録、スタッフによって申し送り、職員共通に把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は利用者の意見、ケアについて本人、家族等から聞き取り意見を求めている。意思の疎通が困難な利用者には家族、関係者の意見、要望を元に作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個人記録および連絡ノートに記入職員間で共有している。フロア会議で毎月、現状や経過観察について話し合い、介護計画の見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設の利点を活用し多機能なサービスを提供できるような柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価（4階）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のフォーマル・インフォーマルな資源を活用し、防災から行事などの楽しみまで安全かつ豊かな暮らしが送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の選択は、本人、家族の希望を尊重している。入居時、連絡体制のある近隣の医師をいくつか紹介もしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	おにだか館職員の常勤の看護師が日常の健康管理や医療を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院がスムーズに行なえるよう、看護職員が中心に病院関係者と連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、家族、看護職員で話し合い、この先予想される状態やリスクを検討し、チームでケアを実践している。事業所で対応できないと判断し場合は、病院等と連携をとり担当医からの医療情報、介護情報を提供している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを常置してあり、緊急時組織図、連絡網を貼付、救命講習を定期的に行ない職員全員が実践できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害・緊急時の組織図・避難場所を貼付し職員全員が周知し、消防署の協力で昼夜問わない避難方法も研修している。		

自己	外部	項目	自己評価（4階）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライドを尊重し敬意をはらった言葉かけや対応を自然なかたちで行えるよう心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の心の声が聞けるよう優しい声かけを心がけている。自分で意思を伝えられない利用者には日常の生活の中から意思や希望を把握する事に努め、思いが実現出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望、ペースを尊重し、その日の心身状況に合わせた支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は職員の見守りの上毎日欠かさず行ない、おしゃれについては好み、季節、着心地を考慮し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は一人ひとりの好みに合わせ、メニューも柔軟にアレンジしている。ADLを理解し、利用者と一緒に準備、片付けを行なっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回摂取量を記録、一人ひとりの状態、力を考慮し調理、工夫をし十分に摂取して頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、毎食後必ず行ない義歯に関しても同様で毎食後のケアをし、夜間は洗剤剤を使用している。治療・ケアが必要な場合は訪問歯科を利用し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価（4階）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄のリズムとタイミングを把握し、自立及び介助でトイレでの排泄に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために日々繊維質、乳製品の摂取を心がけ、車椅子利用の方にも介助による歩行、運動を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の利用者の体調やタイミングを見計らい、同意のもと、入浴を楽しんでいただけるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調、日中の生活上の活動を考慮したうえで休息・安眠策をとり支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとり一人の薬の一覧と看護師からの説明がある。なお症状の変化が見られ薬の変更がある場合は迅速に看護師より申し送り、ノートの活用で職員が周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴、趣味を職員が把握し、日中様々なレクリエーションで楽しんでもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	月に一度の外出・映画など外出レクリエーションを実践。また本人の意思・希望により近隣の店で外出や買い物など外出できるよう柔軟に対応し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価（4階）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望に沿い、家族の同意・確認のもと所持・使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によりいつでも手紙、電話等のやりとりをしていただけるよう対応、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅地で静か、日当たり良好で静かな環境であり不快な音や光などはない。リビングや玄関など、花や置物で季節感をとりいれている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルーム、居室の他に自由な時間を過ごせるオープンスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人、家族の希望で家具や、写真、使い慣れた物など一人ひとり様々に使用して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア全体バリアフリー、要所に手摺りを設置し身体・残存機能の低下予防と安全な環境作りに努めている。		